



朝顔に夜の折り目の残りけり	辻 美奈子
さかしまに蜜吸ふ鳥や沖繩忌	大沢美智子
明易の声を持たない夢の人	大川ゆかり
ガガーリン見し地球とも箱眼鏡	広渡 敬雄
木洩日は天使の梯子夏休み	千田 百里
曼珠沙華もたれ合ふこと一切なし	荒井千佐代
山滴る人に会はねば言葉瘦せ	栗原 公子
通し土間黒光りして梅雨きざす	能美昌二郎
はじまりがあれば終りも滝落つる	木村 公子
濃淡の雲奔りたる蓮見舟	甲州 千草
吊橋に立つ万緑の芯に佇つ	藤原 照子
咲き初めし紫紺の風の花菖蒲	佐久間由子
空蟬のなほ惑ひなき爪力	田所 節子
雲の峰育てる夢と捨つる夢	小川 流子
父の日といふも構はれざる自由	川高郷之助
父の日や父の父知る寺の道	鈴木 一広
水中花昭和の底の純喫茶	森村 江風
月光の羽化してからす瓜の花	小林 陽子
紫陽花の雨に深海魚でるやう	大矢 恒彦
白シャツへひやりと夜の来てゐたる	兵藤 恵
甲武信岳滴りみせてとんがつて	町山 公孝
屋島いま平家の業火夕焼雲	埴 誠一郎
甚平着て酸いも甘いも噛み分ける	関根 瑤華
象潟の鳥の名残よ迎へ梅雨	本池美佐子
滴りの暗がりに座す磨崖仏	千葉 禮子
墓一步あゆめば一步老ゆ	中村 重幸
紫蘇の香や雨後の畑を抜くる風	角口 秀子
耳打ちのごと茉莉花の香に寄りぬ	小倉 征子
梅雨深む粒子の粗き黒砂糖	佐藤 克江
その中の一匹蛭吾に寄り来	長岡 千波

沖 の 水 脈

